

科学博物館ニュース速報

No.10 December 1, 2013

第10号 2013年12月1日

祝！リニューアル

一周年記念イベント開催

おかげ様で、10月2日をもってリニューアルオープンから一年を迎えることができました。

これもひとえに皆様の支えがあつてこそです。感謝を込めて10月1日～5日でリニューアルオープン一周年記念イベントを開催しました。初日には、ミュージアムグッズに2つの新商品が登場。一つは、当館のジャカード織機で織った布でつくったネクタイ。

「NOKO DAIGAKU」の柄織がポイントの、とてもメモリアルな一品です。二つ目は、まゆ人形キットです。9月に参加した「青少年のための科学の祭典」での人気ぶりに、急遽商品化が決定しました。併せて購入者限定のまゆ人形づくりワークショップも開催しました。

メインイベントの5日(土)は、生憎のお天気。玄関前で予定していたジャグリングサークルのパフォーマンスも、急遽講堂へ移動となりましたが、お祭りのトップバッターとラストを華やかに飾ってくれました。更に、博物館念願のミュージアム・コンサートを開催。この日のために、アカペラサークルANITと東京農工大学管弦楽団、そして畠山雄二准教授と、豪華な出演者が揃い「The☆農工大」とも言えるコンサートとなったと思います。

また、友の会のワークショップやmussetによる実験教室なども実施し、イベント盛り沢山な一日となりました。特に今回は、学生ボランティア団体mussetが企画の中心となり、学生や教職員参加のイベントが実現しました。

(科学博物館特任助教・高木愛子)



1周年記念コンサート：熱演する畠山先生

特別展

「第9回東京シルク展」開催

10月25日(金)～27日(日)に第9回東京シルク展が、当館にて開催されました。主催である「多摩シルクライフ21会」は、平成4年に工学部で開催された「科学技術展'92および絹まつり」がきっかけとなり発足した、絹の研究者・技術者などにより組織されている団体です。隔年で「東京シルク展」を開催していますが、当館のリニューアルを機に、是非いま一度農工大へ里帰りしたいとのご相談を受け、この度の開催が実現しました。

残念ながら、開催期間中台風が接近してしまいましたが、それでも3日間で760人のお客様にご来館いただきました。中には着物の方もいらっしゃるなど、本会への並々ならぬ期待が感じられました。会場では、色とりどりの美しい繭や素晴らしい作品の数々が並び、貴重な第62回神宮式年遷宮「御装束神宝篇」のビデオの特別公開も行われました。また、糸繰りをはじめ、真綿作り、籠打台、染め、布団打ちなど、展示と併せて実演が行われ、非常に繊細な作業を簡単そうに行うプロの手捌きを堪能することができました。

26日には、梶谷宣子氏(メトロポリタン美術館終身名誉会員)を基調講演にお迎えしての、シンポジウムが行われました。100席以上用意していた講堂は、立見が出るほど盛況でした。また27日には絹の弦を使った絹の音コンサートが開催され、多くの方がプロの演奏に酔いしれました。

今回の特別展を通して、絹の研究者、工芸家、業者、音楽家など、実に様々な方々とお近づきになることができましたことが最大の収穫だと感じています。このご縁を大切にしながら博物館のソフト面の充実につけていきたいと思えます。

(科学博物館特任助教・高木愛子)

帰ってきた、科技展！

学園祭の恒例である「科学技術展」。実は当初、小金井地区は博物館で開催されていたのをご存知でしょうか。ここ数年はBASE棟で開催されていましたが、リニューアルを機に今年、博物館に帰ってきました！1階の企画展示室

と教育研究展示室を開放し広いスペースを用意したのですが、各研究室からのポスターと説明員、そして来館者がひしめき合っただけで、すごい熱気となっていました。

博物館ではその他にも、2階で友の会によるワークショップ、3階で航空研究会の展示とmussetによる実験教室を開催しました。特に実験教室は予想以上の人気で、順番待ちが出るほどでした。メンバーはてんでこ舞いでしたが、何か月も前から準備していたイベントが多くの人に参加してもらえ、大きな達成感を得たことと思います。

不安定なお天気の中、3日間で1,812人のお客様にご来館いただきました。中には、明らかに実験教室目的で来館した子供たちが、科技展で学生たちから難しい研究内容を丁寧に説明してもらい、「面白かった～」と目を輝かせて出てくる様子なども見られ、博物館で科技展を開催する意義を改めて実感しました。

(科学博物館特任助教・高木愛子)



ポスターの前で熱心に質問される来場者

小野先生写真展開催中！

10月は一周年記念に合わせて、シャルドンネギャラリーで佐藤勝昭名誉教授の絵画展を開催しました。学内の各所に飾られている佐藤先生の絵画11点が一堂に会しました。シャルドンネギャラリーでは絵画の展示は今回が初めてでしたが、写真の展示とは異なった趣に多くの方が惹きつけられていました。

現在は学園祭に合わせて開始した小野隆彦写真展「バリの息吹～王族と庶民生活の融合～」を12月14日(土)まで開催しています。鮮やかなバリの色彩と躍動感溢れる写真をぜひご覧ください。また、東京農工大学出版会より、近日同タイトルの写真集も発売予定です。

音声ガイド機器を導入

上野公園の国立博物館など、ほとんどの大きな博物館では、受付のところで音声ガイド機器を有料で貸し出しています。来館者はこれを使って、展示品のキャプション付近の番号を入れて展示解説を聞きながら見学を楽しんだり、展示品の理解を深めています。

一方、科学博物館では、従来より団体見学については事前申し込みにより教職員もしくはmussetメンバーが展示解説を行ってきました。しかしながら、個人もしくは小人数の来館者への展示解説は、予約なしです。そのため、今年度、農工大教育研究振興財団に音声ガイド導入のための援助申請を行い、財団のご理解もあって、音声ガイド器の購入経費とアナウンス委託料が認められました。

写真が音声ガイド器です。大きさは、スマホとほぼ同じサイズで、テンキーを使って展示品のキャプション近くに表示されている番号をインプットして再生すると、イヤホンから女性の解説が流れます。解説番号は28ヶ所にあり、主に常設展を中心に分かりやすい解説を心がけています。実際の解説時間は40分程度ですが、移動を含めると1時間程度になります。解説音声は、様々なナレーションを経験されているプロの女性ナレーターに依頼していますので、落ち着いた雰囲気のある音声ガイドを楽しむことができます。

導入して2ヶ月が過ぎました。これまでに30人ほどご利用いただいておりますが、分かりやすく博物館見学を楽しめたという声を何件もいただいています。通常、ほとんどの博物館では音声ガイド器は有料ですが、本館では無料で貸し出しをしており、それも好評のようです。教職員の皆様も、ご来客を博物館に案内されるとき、ぜひ音声ガイド器をご利用ください。音声ガイドは受付で無料で貸し出しをしています。



10月より導入された音声ガイド器

博物館ホームページが 完全リニューアル

科学博物館はリニューアルして1年余りが経過しました。館内は、ほとんど刷新されましたが、唯一昔の姿をとどめてい

たのが、博物館ホームページでした。施設リニューアルの当初、ホームページも完全リニューアルを目指しましたが、経費等の問題もあり、トップページだけの改定にとどまっていた。そこで、リニューアル1周年を契機に完全リニューアルを目指して参りましたが、この10月から新ホームページに完全移行して現在に至っています。

今回のリニューアルでは、トップページに新着情報を載せて、各種のイベントや企画展示などの情報に直接アクセスできるようにしました。また、Googleカレンダーを利用したイベントカレンダーも表示しており、いつどのようなイベントや展示があるか一目で分かるような工夫がなされています。さらに、博物館の出版物、グッズ、そして博物館支援団体の紹介などにもすぐにアクセスできるようになっています。

ホームページのアクセス数を増やすには、絶え間ない情報の更新が必須です。このため、博物館の全教職員が更新できるようなスキルを身につけるべく努力しています。新装なった博物館ホームページにアクセスいただければ幸いです。



新しくなった科学博物館ホームページのトップページ、イベントを中心とする新着情報がすぐに見られます。

博物館日誌

10月、11月の入館者数は、それぞれ2,159、3,052名と昨年の同時期に比べて35%および50%増となっています。これは、前述の一周年イベント、東京シルク展、そして科学技術展と大きなイベントによるところが大きかったと思いますが、イベントのない日にも多いときには40名を超える一般来館者があり、以前に比べて科学博物館の認知度が向上したようです。

最近、博物館前で近くの園児がドングリ拾いをしているのを目撃しました。園庭さんの適時の草刈り、友の会サークル等さまざまな方々が気付いた時に掃除をして頂けるからでしょうか？地域の方々

が博物館に入りやすい環境になっているとしたら、地域に親しまれ、地域貢献する博物館として大変良い方向に向かっていくように思います。

ところで、当博物館では、豊田佐吉氏が開発した無停止棒替式自動織機（G型）を動態保存しています。その特許を売却して自動車開発の原資にしたと言われています。その特許を当時世界トップクラスの英国紡織機会社『プラット』が購入したのですが、約10年前豊田章一郎名誉会長が訪れ、荒廃した『プラット』の跡地と町並みを見るにつけ、豊田市は絶対荒廃させない、と決意したと言われています。

愛知県挙母市を豊田市に変えて、トヨタを支える中小企業から『下から上がるボトムアップ』する企業環境を形成しました。環境変化に対応する組織の集積は海外では容易に作れず、国内生産は、為替の影響で収益が大きく変動するリスクを伴うにも関わらず、あえて「日本にいることこそ競争力。国内生産300万台を死守する。」と言い切る現豊田章男社長には頼もしさを感じます。そんなトヨタ自動車ですが、自動車製造年間1000万台の世界一の自動車会社になりそうです。そんなグローバル企業であるトヨタの礎である自動織機を科学博物館で間近に見られることができるのは凄いことではないでしょうか。

(科学博物館事務・北川和幸)



《博物館活動カレンダー》

★小野隆彦写真展

「バリの息吹〜王族と庶民生活の融合」

11月8日〜12月14日：シャルドンネギャラリー

★平成25年度第2回企画展「絹製人工血管」(仮題)

平成26年2月11日〜4月30日(予定)：1F企画展示室

★平成25年度第2回ミニ企画展「農機具」

平成26年2月〜3月(予定)

★繊維技術研究会講演会

・12月17日10時〜12時：岩島 寛「健康寿命と介護用具」

・平成26年1月21日10時〜12時：藤井美登利「埼玉県の蚕糸・絹文化をめぐる小さな旅〜養蚕・織物で栄えた町をたどる」

・2月18日10時〜12時：岩島 寛「健康寿命と介護用具その2」

「科学博物館ニュース速報」第10号

◆発行日 2013年12月1日

◆編集 科学博物館ニュース速報編集委員会

梅田倫弘・高木愛子・北川和幸

◆発行 東京農工大学科学博物館